

# 碧水だより



—めざす子ども像—  
・仲よくする子、かしこい子、たくましく生きる子

平成18年 5月29日 第 2 号  
阿蘇市立碧水小学校 羽 山

## 6 月 行 事 予 定 表

日	曜	校 内 の 行 事	給 食
1	木		○
2	金	校内研修	○
3	土		×
4	日		×
5	月		○
6	火	生活集会 クラブ	○
7	水	校内研修 幼小中連携ミニバレー大会	○
8	木	耳鼻科検診	○
9	金	避難訓練 (地震)	○
10	土		×
11	日		×
12	月		○
13	火	音楽集会 クラブ	○
14	水	校内研修	○
15	木		○
16	金		○
17	土		×
18	日		×
19	月		○
20	火	縦割り班活動	○
21	水	職員会議	○
22	木		○
23	金	クラブ	○
24	土	会長杯ミニバスケットボール大会	×
25	日	// 一年学年行事	×
26	月	委員会活動	○
27	火	クラブ 縦割り班活動 お話アップルの会	○
28	水	校内研修	○
29	木		○
30	金	校内童話発表会	○

7月の予定 4日授業参観 14日人権集会  
19日交通安全教室 20日終業式

プール掃除を行いました  
例年より早く梅雨入りしそうな天気が続いていますが、二十五日(木)の五、六時間にプール掃除を行いました。天気にも恵まれて五、六年生全員でバケツやたわしを持ってプールや更衣室、トイレなどとても一生懸命にきれいにしてくれました。



### EM菌の効果てきめん



プール掃除を行いました

教師の現状にもっと理解を

(五月二十日熊本日々新聞より)  
(前略)ただでさえ多忙な教師が、本務以外の対応が重なり疲労困ぱいしている。(中略)それでも多くの教師は一生懸命やっている。自らの健康や家族を犠牲にしている者も少なく

家庭教育手帳は、低学年用と高学年用と文部科学省と県が作成し、各家庭に配布してあります。改めて読むと大変参考になります。

子どもに自分で考え自分で行動できる人に育ててほしいから、子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり(過保護)、一歩一歩にあれこれ指示をしたり(過干渉)しないことです。子どもが好きなものを見つけたら待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り力づけましょう。あれこれしないで見守ることは、モノを買ってやったり何かをしてやったりするより、ずっと難しく愛情がいくことで

## 家庭教育手帳(文部科学省)より

現在スクールカウンセラーとして、熊本県内の多くの学校で仕事をしていたら、先生が「読者のひろば」に寄せられた投書です。学校を良く見て理解していたら、だいたい意見だと感銘しました。学校と家庭、教師と保護者が子供を中心として視点を共有しながら教育にあたらなければ効果は半減します。今後とも学校に気軽に足を運んで下さいますよう、学校も敷居を低くしてお待ちしたいと思います。

# 家庭でできる、「お金のかからない学力向上術」～

- ・家庭内コミュニケーションの豊かさ」と「子どもの成績」との関係
- ・「保護者のモチベーション・アップこそ、子どもを伸ばすカギ」
- ・「自分が幸せだと感じる子どもは、学力が伸びる」

ベネッセ教育研究開発センターでは、子どもの学習と育ちに関する家庭や学校の役割について研究しています。その中からいくつかの気になる記事を抜粋しました。

一、「親子のふれあい」が学力向上のポイント  
人は誰でも生まれつき「知的好奇心」を持っています。しかし、この「知らないことを知りたい」という基本的な「知的好奇心」の差はどこから生まれるのでしょうか。

二〇〇四年にベネッセ教育研究開発センターは大規模なアンケート調査（「第一回子ども生活実態基本調査」）を実施しました。その結果「豊かな家庭内コミュニケーションが、子どもの成績に大きな影響を与える」という結論を出しました。

子どもたちの教科成績を上位・中位・下位の三グループに分け、さまざまな項目に関する「得意・苦手」との関係性をみると、「ものを覚える」「わからないことや知らないことを調べる」「難しい問題をじっくり考える」などの項目が得意かどうかは、成績とはっきり関係ができました。

そしてこれらの項目に「得意」と回答した（＝成績上位の）子どもたちの多くが、保護者とのコミュニケーションが豊かな家庭で育っていることがわかりました。

つまり、いろいろ体験することを保護者が積極的に応援してきた家庭では、子どもは小さな失敗を重ねながらも、できることを少しずつ増やすことができます。

できなかったことができるようになることで、子どもは自己肯定感（「がんばれば、自分ができる！」という自信）が高まり、知的好奇心が大きく育ち、それが自発的学習の原動力になっていると考えられます。

二、「保護者のモチベーション・アップこそ、子どもを伸ばすカギ」

保護者講演会（勉強会）の案内文書を受け取ったとき、子どもの教育に関心がある方ならば、『わが子のために』と参加を検討します。ところが、いざとなると忙しいからと結局参加を見合わせる方が少なくありません。

もちろん、いろいろな事情はあると思います。しかし、参加された方が時間に余裕があったのかというと、けっしてそうではありません。

それでも『ひよっとしたら何か一つでも、わが子のために学べるのでは』と同じように忙しい仕事や山積みの家事を抱えているながら、何とか苦心して足を運ばれたのだらうと思います。

子どもの純粋な感性は、あなたのためにと百回繰り返して口でいわれるより、子どものために親自らが学び成長しようとする姿勢に、『学ぶことの大切さ』を感じ取るはずです。

三、「自分が幸せだと感じる子どもは、学力が伸びる」

日本子ども社会学会が発表した全国の小学校五、六年生三千二百名が回答した意識調査の結果です。

「一日の終わりに、明日もきつといいことがあると思うか」という問いに、「よく思う」「わりと思う」と回答した児童は全体のわずか三割強に過ぎませんでした。

子どもたちが本当に明日に、将来に期待を持っていないのだとしたら、その子どもたちを伸ばしていくことはとても難しいと思います。

「私はとても幸せだ」と答える子どもは学習意欲・学力が高いといわれます。

大阪市教育委員会が小学校六年生約千九百名を対象に実施した調査で、「私はとても幸せだ」と答えた小学生は全体の約半数（五十一％）でした。

この調査結果と学力テストの結果を比較したところ、自分が幸せだと感じる児童ほど、「ほめられるとやる気がでる」「どんなことでも最後までがんばれる」などの学習意欲が高い傾向があり、学力テストの正答率も高かったそうです。

つまり、「自分が幸せだと感じている子どもほど、学習意欲も学力も高い」というわけですが、子どもたちが「自分は幸せだ」と感じるためには、どうすればいいのでしょうか？

子どもたちの幸せは親子の信頼関係から生まれます。人から信じられ、期待されるととても幸せな気持ちになり、がんばることができず。

子どもたちの幸せは、お金や物ではなく、親子の信頼関係から生まれるということになります。